

—生きることは分かち合うこと、弱者と—

PHD LETTER

PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

PHD LETTER
Volume
159
2025.7
公益財団法人PHD協会



個人情報保護の為、
一部内容を伏せて掲載しています。
ご了承くださいませ。

Contents

- P.2-4 特集：ミャンマー大地震緊急支援報告
- P.5-8 2025年度第41期研修生紹介
- P.5-6 ピューピューさん/ミャンマー
ロータリー米山記念奨学会（川西ロータリークラブご紹介）
- P.7-8 ルビーさん/ネパール
ロータリー米山記念奨学会（芦屋ロータリークラブご紹介）
- P.9 第41期研修生ルビーさん インタビュー
- P.10 2025年度ホストファミリーご紹介
日々是東奔西走
- P.11 居住支援事業報告
- P.12 2025年度新スタッフ紹介
2025年度26期国内研修生紹介
- P.13 2025年度事業方針・計画
- P.14 PHD活動紹介 2025年3月～2025年6月
- P.15 PHD News

表紙写真/第39期研修生チェリーさん 被災地にて支援活動をする様子



公益財団法人PHD協会

PHD運動とは1962年よりネパール、東南アジアを中心に医療活動に従事した岩村昇医師の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげ、平和(Peace)と健康(Health)を担う人づくり(Human Development)をすすめ、共に生きる社会をめざし、1981年に今井鎮雄(初代PHD協会理事長)と共にPHD協会を設立しました。

PHD LETTER 159号

発行：公益財団法人PHD協会
住所：〒653-0836
神戸市長田区神楽町3丁目7-4
電話：078-414-7750
FAX：078-414-7611
E-mail：info@phd-kobe.org
URL：http://www.phd-kobe.org/

— ウルゲンさん、途中帰国のご報告 —

残念なお知らせとなりますが、第41期研修生としてネパールから招聘した聴覚障害のあるウルゲンさんが5月15日に途中帰国となりました。主な理由は健康面での問題です。ホームステイ先への帰宅の際に地下鉄に乗ったのですが、その際に強い頭痛とめまい、吐き気に襲われました。その後、病院を受診したところ「聴覚が特別な波形」であることが判明しました。医師によると、ウルゲンさんにはきこえる音ときこえない音があり、無意識にきこえない部分をきこうとすることで頭痛や吐き気が起こることでした。一時は夜に何度も嘔吐を繰り返し、眠れないほどでした。慣れない異国での生活のストレスが影響している可能性もあり、本人とも協議を重ねた結果、断腸の思いではありますが、帰国を決断するに至りました。

ウルゲンさんからのメッセージです。



ここで過ごした時間と皆さんとの交流に本当に感謝しています。皆さんの献身的な姿勢や地域社会とのつながりについて多くのことを学ばせていただきました。ここで得た人間関係は私にとってかけがえのないものです。貴重な機会をいただきありがとうございました。心より感謝を込めて。

ウルゲン・ナムドゥル・タマン

来日から2か月足らずでしたが、それでも多くの方にご支援いただきました。皆さんのお顔を思い出すと感謝に加え、申し訳なさも残ります。しかしながら、ウルゲンさんの来日目的であった「聴覚障害のある人たちを支援したい」という想いは変わりません。途中帰国となりましたが、今後もウルゲンさんと連携し、活動を継続していきたいと思っていますので、引き続き見守っていただければ幸いです。

事務局長 坂西



「私は今、生きています。生きていてラッキーです」

「これほど大きな地震を経験したのは初めてです」

「倒壊した家や瓦の中で、多くの命が失われました」

「電気も水も止まり、生活はますます苦しくなりました」

「怖いけれど、前を向いてがんばります」

「日本のみなさん、心配してくれてありがとうございます」



2025年3月28日、ミャンマー中部のザガイン地方域とマンダレー地方域の境界付近でマグニチュード7.7(推定)の大地震が発生しました。震源地がミャンマーであったにもかかわらず、最初に私たちが耳にしたのは隣国タイでの高層ビルの被害でした。地震発生直後、ミャンマー国内の状況を知る術はほとんどありませんでした。元研修生たちと連絡が取れたのは地震の翌日。突然の大きな音と揺れに、「爆弾が落ちたのかと思った」と語り、地震そのものに気づいていなかった研修生もいました。情報統制が厳しい現地では、自分の国で何が起きているのかを知ることさえ困難です。その現実が私たちの胸を深く締めつけました。

地震発生の翌日にはPHDミャンマーのリーダーであるモーママさん(2013年度研修生/2019年度短期研修生)と連携し、PHD協会として緊急支援を開始しました。当会は緊急支援を専門としている団体ではありませんが、長年にわたり研修生と築いてきた信頼関係があります。PHDミャンマーと協議を重ね、一方的ではない、現地の声に寄り添った支援を心がけています。

以下、大地震発生以降の支援の歩みをご報告いたします。

広報・啓発担当 井上遼香＝文

支援活動詳細

日付	内容	金額 (チャット / 円)
3月28日	地震発生 / 安否確認開始	—
3月29日	元研修生の無事を確認。第39期研修生チェリーさんはマンダレー中心地に住んでおり被災しました。	—
3月31日	緊急支援・募金活動開始	—
4月5日～6日	食料配布 (1,300人)、義援金配布	9,200,000 / 約350,034円
4月8日	街頭募金参加	—
4月12日	食料配布 (141人)、義援金配布	1,228,000 / 約42,026円
4月22日	義援金配布 (65世帯)	6,500,000 / 約222,450円
4月25日	水道修理費 (第39期研修生チェリーさんの住む地域)	500,000 / 約17,111円
4月30日	食料配布 (136人)	6,800,000 / 約232,717円
5月28日	街頭募金参加	—
6月13日	住宅再建義援金配布	10,000,000 / 約342,231円
～現在進行中	義援金配布 (ミャンマー在住の元研修生23名・各5,000チャット)	11,500,000 / 約393,566円 (予定)

支援金の使途 (6月25日時点)

区分	支出額
食料支援	17,028,000チャット (約582,751円)
義援金配布	28,700,000チャット (約982,203円)
支援活動経費	2,100,000チャット (約71,868円)
合計	47,828,000チャット (約1,636,824円)

モーママさんの奮闘と、被災地から届く感謝の声

今、私たちの国にはお父さんとお母さんがいないみたい。

地震のことも皆どうしたらいいか分からない。

自分たちだけで頑張るしかないんです。

軍事政権下で厳しい統制が続く中、モーママさんは自身の命を守りながら現地の支援活動を取りまとめています。リスクを最小限にしながら支援物資と義援金を届け続けています。支援の現場ではPHD協会の名前は伏せ、軍の目を避けて行動しています。支援を受け取った人々には「日本の誰かが助けてくれた」ということはしっかりと伝わっています。現地からは、「日本の皆さんありがとうございます。どうか皆さんが健康で幸せでありますように」と、祈りにも似た感謝の言葉が届いています。

現地の声とともに届けた支援

地震発生直後

「食料を配りたい」という声が届きました。最優先されたのは命を守ること。マンダレーの中心地で避難生活を送る被災者に、水、ご飯、卵、漬物などを届けました。モーママさんたちは繰り返し現地を訪ね、必要な場所を見極めながら支援を届けました。

地震発生から約1か月

「生活のためのお金が必要」という声が届きました。地震で仕事や家を失った人々には生活再建のためのお金が必要です。そこで、生活費、住宅再建、水道修理のための義援金を配布しました。4月には、家屋が全壊・半壊して甚大な被害を受けた地域で65世帯に義援金を、第39期研修生チェリーさんが住む地域では水道修理費を届けました。

地震発生から約2か月

「住宅再建をしたい」という声が届きました。地震から2か月が経過した時点でも倒壊した家屋が多く残り、その光景をモーママさんたちが目の当たりにしました。倒壊した家屋の下敷きになり命は助かったものの、恐怖の後遺症で発話できなくなった子どももいます。残念ながら全ての家族を助けることは叶いません。モーママさんたちは何度も現地に足を運び、苦渋の決断で支援対象となる家族を選定し、住宅再建のための義援金を届けました。

※住宅再建の支援に関しては国際ロータリー第2680地区よりいただいた寄付金を活用して実施しております。

MYANMAR



食料配布準備の様子



水道修理後の道

ピューピューさん、街頭募金に参加しました！

4月8日と5月28日、JR尼崎駅での街頭募金に参加しました。尼崎市で介護職に就くミャンマー人や伊丹市の高校生、ミャンマーを応援する皆さんが力を合わせ、ミャンマーのために声を上げました。PHD協会からは今年の研修生ピューピューさんと職員も参加しました。ピューピューさんは震源地であるザガイン出身です。幸いなことに家族も家も無事でした。「本当は今すぐミャンマーに帰って家族に会いたい。でも私は1年間日本で頑張ると決めて来ました」と、まっすぐな言葉で話してくれました。母国への想いを胸に、「ミャンマーを助けてください」と道行く人々に呼びかけました。遠く離れていても、被災地と心はつながっている、そのことを実感する時間となりました。



ミャンマーのことをどうか忘れないでください

現地に震災支援が届く一方で、「地震もつらいけれど、内戦のほうがもっとつらいです」という声も寄せられています。胸が締めつけられるような言葉です。地震と内戦という二重の苦しみを抱えるミャンマーの人々にとって、復興への道のりは決して平坦ではありません。そこには長く厳しい時間と、粘り強い支援が必要です。「自分も大変だけれど、もっと大変な人を助けたい」被災地ではそんな思いを抱いた人々が力を合わせて前を向いています。「生きることは分かち合うこと」その精神がミャンマーの人々に深く根づいていることに、私たちも気づかされます。

6月25日現在、総額9,920,559円ものご寄付をお寄せいただいています。皆さまの温かな気持ちに心より感謝申し上げます。このご支援と声援を力に、今後も現地の声に耳を傾け、PHDミャンマーと連携しながら支援活動が続けてまいります。今、私たちにできるのは、ミャンマーを忘れず思いを寄せ続けることです。「ミャンマーのことを思っている」という気持ちが現地の人々の力になります。これからもどうかミャンマーを心に留めていてください。その思いを私たちは責任をもって現地へ届けてまいります。

#Pray for Myanmar

担当者コメント

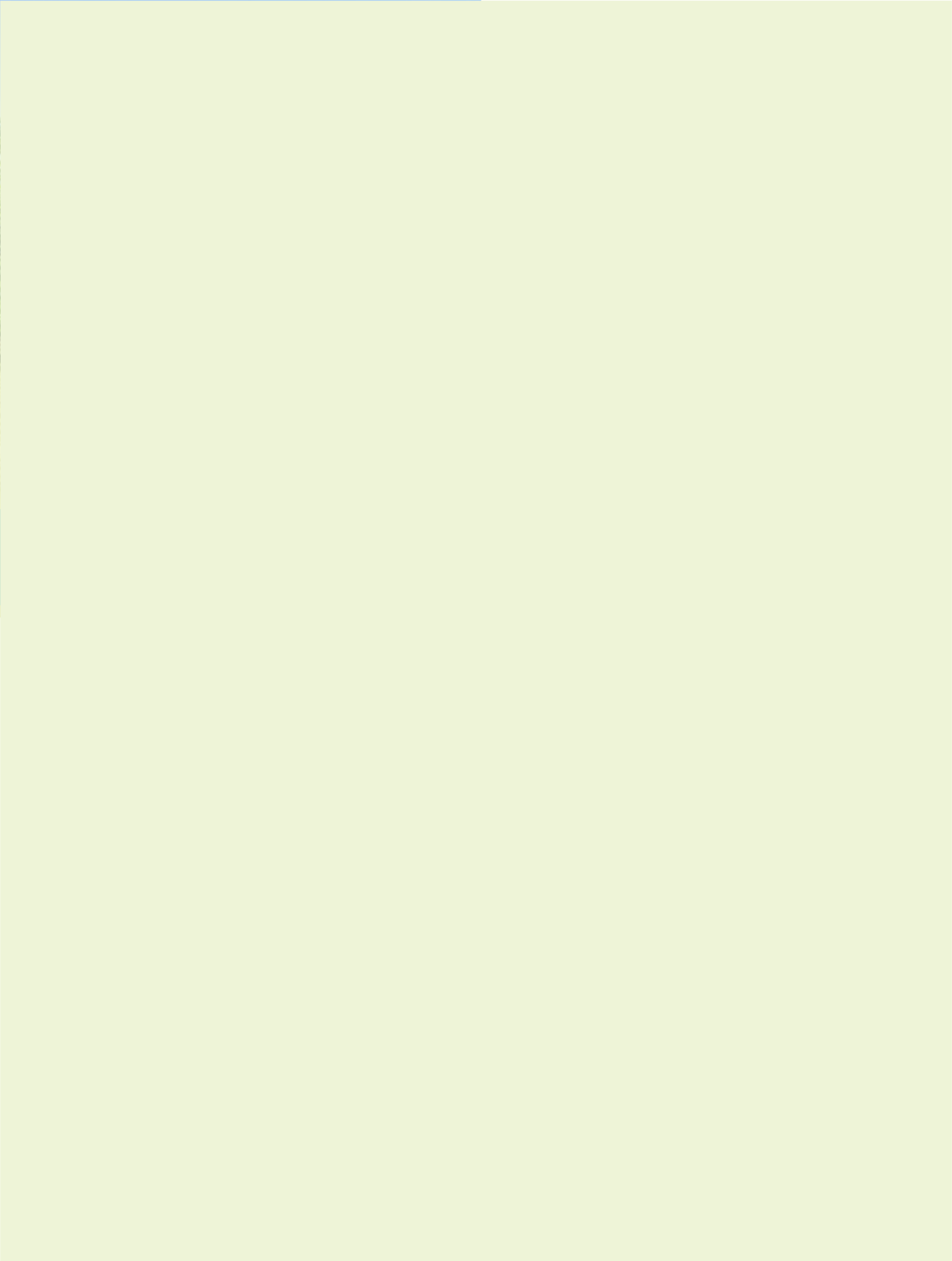
元研修生の無事が確認できて、本当にほっとしました。支援者の皆さまからのご心配の声を多くいただき、ミャンマーの研修生たちがどれほど大きな愛に支えられてきたのかを改めて実感いたしました。

「最初は地震だとは思わなかった。爆弾が落ちたのかと思った」この言葉を聞いた時、胸が締めつけられるような思いでした。日々、どれほどの恐怖と隣り合わせで生きているのか。想像を超えます。今のミャンマーでは物価が高騰し、お米を植えることさえ禁じられています。誰もが苦しい状況にあるはずなのに、それでも「自分よりも大変な人を助けたい」と願う人々。仏教の教えが根づいた、温かい国民性を感じます。日本から届く寄付に対しても、何度も手を合わせ、「日本の皆さんの幸せを願っています」と話してくれました。

モーママさんはいつもビデオ電話越しにとびきりの笑顔を見せてくれますが、本当はどれほど辛い思いをしているのか。「はるか」と電話する時は笑顔でいさせて」と言ってくれる彼女ですが、時折、涙がこぼれることもあります。すぐにミャンマーに駆けつけることができないもどかしさを抱えながら、今できるのは、彼女の心の声に耳を傾け、寄り添い続けること。「再会したときは、たくさん語り合おうね」そう約束しました。必ず、会いに行きます。（井上遼香）

チェリーさんの家には再び子どもたちが集まるようになり、地震前のようにシュシュ作りに励んでいるそうです！





ロータリー米山記念奨学会

本年度は米山奨学生として、ピューピューさんが川西ロータリークラブでお世話になります。



鴨井公司さん / 川西ロータリークラブ
ピューピューさんのカウンセラー

川西ロータリークラブのご紹介

川西ロータリークラブ様にはいつもミャンマーの研修生がお世話になっております。昨年のミーミーさんに続き僧院学校の先生であるピューピューさんを温かく迎えていただきました。クーデター、大地震と辛いことの続くミャンマーの研修生を川西ロータリークラブの皆さま全員で寄り添いそして支えてくださいます。帰国した元研修生と今も繋がり、常に連絡を取り合ってくださいのも川西ロータリークラブ様ならではの。今年度のカウンセラー鴨井さん、ピューピューさんをどうぞよろしくお願いします。

鴨井公司さんからのメッセージ

当クラブは毎年ミャンマーから米山奨励生を受け入れてきました。また奨励生が国に帰ってからも実際に会員が数回現地を訪れたり、国の内乱などで渡航が困難な間もSNSで繋がったり、PHD協会などを通して寄付などの支援を続けています。今回の奨励生ピューピューさんは今年3月末にあったミャンマーの地震の震源地であるマンダレー近郊のザガイン出身で日本に来て早々に故郷が災害に見舞われ、大変不安な気持ちの中PHD協会の協力の元、子どもの保健や教育などを一生懸命学んでおられる事は大変感心させられます。日本語も大変お上手になられました。



川西ロータリー歓迎会にて
たこ焼き作りを楽しむピューピューさん

PHD 2025年度第41期研修生紹介

研修担当 内堀友晴＝文



ルビー
ネパール / 23歳

ネ

パール東部バグマティ州バクタプル出身のルビーさんは生まれてすぐに聴覚に障害があることが分かりました。地元の学校に通うも、十分なサポートはなく、学びから取り残される状態が続いていました。転機が訪れたのは14歳のとき。カトマンズのろう学校に転校し、手話を学び始めたことで大きく世界が変わりました。高校時代には、カトマンズにネパール初の聴覚障害者のための柔道場が開設され、ルビーさんは日々の献身的な姿勢が認められ初代キャプテンを務めました。また22歳のとき「手に職をつけたい」という思いから聴者向けの洋裁クラスに通いました。手話通訳のサポートがない環境の中、先生や周囲の人たちの動きを見て学んで洋裁の基礎を身につけました。

いつも笑顔で、前向きに努力を重ね、目の前のことに真摯に向き合う姿は、周りの人たちに大きな影響を与えるでしょう。「聴覚障害者で洋裁や柔道を教えられる人は少ないと思う。日本で多くのことを学んで、自分と同じ境遇の人たちにスキルを身に付ける機会を与えたい」と語るルビーさんの挑戦は続きます。

ルビーさんの研修

洋裁

ネパールの聴覚障害者は働き口を見つけるのが非常に難しい状況にあります。ルビーさんもスキルを身につけたいという思いから、カトマンズで6か月のトレーニングを受け、洋裁の基礎を学びました。日本では、より応用的な研修を受けます。日本で学んだ技術をネパールで聴覚障害者に共有しスキルを身に着けさせ、自らも服を作って売ってみたいと考えています。



洋裁研修の様子（神戸女子洋裁専門学校にて）

柔道

ネパールでは、聴覚に障害のある女性が性被害に遭うケースが非常に多いと言われています。こうした背景から、身を守る手段として柔道を学ぶ人達が多いです。ルビーさんは柔道場で初代キャプテンを務めましたが、柔道を学んだのは1年のみでした。日本で柔道を更に学び、聴覚障害のある女性たちに技術を共有していきたいと考えています。

IT

ネパールではPCに触れる機会が非常に少なかったようです。タイピングから練習し、基本的なITスキルを日本で身につけたいと考えています。



柔道研修の様子（関西学院大学柔道部にて）

ルビーさんの歩み



ルビーさんが通ったカトマンズのろう学校の教室



柔道部



ネパールでの洋裁研修の様子

聴覚障害がある
ことが判明

0歳

バクタブルのろう学校に転校

12歳

学校に柔道部が設立される
初代キャプテンに就任

18歳

大学の教育学部に入学
洋裁の研修に参加（約6か月）

22歳

3歳

ミネルバ イングリッシュ スクール入学
その後、セイクレッド ハート アカデミー入学

14歳

カトマンズのろう学校に転校
寮で生活をする

21歳

高校卒業

23歳

Sign Cafe（手話カフェ）で就労
PHD協会研修生として来日



カトマンズのろう学校の女子寮



ルビーさん高校時代の写真



カフェで仕事をしている様子

ロータリー米山記念奨学会

本年度は米山奨学生として、ルビーさんが芦屋ロータリークラブでお世話になります。



三宅康雄さん / 芦屋ロータリークラブ
ルビーさんのカウンセラー

三宅康雄さんからのメッセージ

今年度ネパールからの奨学生ルビーさんを受け入れるにあたり、彼女が聴覚障害者という事もあり、実際に会うまではどうやって意思疎通を深めていけばよいか少々不安でした。

現在はスマホのアプリで音声英語に変換したり、山本様や濱様にも助けていただきながら少しずつ例会での会話を楽しています（私の手話レベル向上が当面の課題です）。

ルビーさんはとても熱心で何事にも挑戦され、どんどん日本の文化や技術を吸収されており、その努力には頭が下がる思いです。

これからもいろいろなことに触れ一回りも二回りもご成長されることを切に願います。

芦屋ロータリークラブのご紹介

芦屋ロータリークラブ様には今回初めてお世話クラブに手を挙げていただきました。ルビーさんは聴覚障害を持っているということでクラブ内では受け入れに対して不安もあったことと思います。今回カウンセラーを引き受けてくださった三宅様は米山委員としても研修生に深い愛を持って接して下さっており、こちらも安心してお任せすることが出来ました。ルビーさんの笑顔が芦屋ロータリークラブの皆さまに溶け込んでいきますよう、1年間どうぞよろしくお願いいたします。

米山奨学生担当 濱宏子＝文



例会でのお食事を楽しむルビーさん
「美味しい」という手話

「ネガティブは嫌いー」

逆境の中でも前だけを向いて歩く、ルビー・ボヤージュの物語」

生まれてからずっと音が遠い世界に生きてきたルビーさん、その半生を聞きました。

聞き手:事務局長 坂西卓郎、研修担当/手話指導員 山本真記子



Q. 最初はろう学校じゃなかった？

うん、きこえる子ばかりの学校に通ってたよ。私だけきこえなかったから、とても大変で。授業も口話だけだったから、本当に難しかったの。でもね、公立の学校ではなく、セイクレッド ハート アカデミーに行ったので、英語を勉強できたのは良かったと思ってる。

Q. 学校生活の中で印象に残っていることは何かある？

授業参観の時、みんな親が来てくれるでしょ。でも、私のお母さんは夜まで仕事をしていたから、ずっと待ってたの。友達みんな迎えに来てもらっていたのに、私は来てもらえなくて…すごく寂

しかった。私の家庭はお父さんに問題があつて…お父さんは優しくないと、家族のためではなく自分のためにしかお金を使わない。お酒ばかり飲んで…。

Q. 学校外で苦労したことは？

小さい頃は手話も知らなかったし、きこえる人たちとも話せなかったから、静かに過ごしてた。話しかけられても答えられなかったし、口の動きだけを見ても意味がわからなくて。だから小さい頃のことって、あんまり覚えていないの。

例えば、お店でスムーズにやりとりできなくて怒られたことがあるし、バスの時も。ネパールは日本みたいに表示がないから、降りる時にお金がいくらなのか分からなくて。もたもたしていたら、周りの人に怒られちゃった。

Q. 手話を初めて知ったのはいつ？その時の気持ちは？

12歳の時、ろう者同士が手話で会話してるのを見たのが最初だったんだけど、最初は全然わからなくて。でも、どうしても理解したくて、がんばって読み取ろうとしたの。



手話で会話している様子

その後、バクタブルの先生から手話の本をもらって勉強したんだけど、やっぱり最初は難しかった。でも、だんだん分かるようになって、友達とちゃんと会話できるようになって…すごく嬉しかった！手話を覚えて、一緒にごはんを食べられる友達ができたのは、今でも忘れられない思い出。手話があったから、仲間が増えて、心から嬉しかった。

Q. ルビーさんにとって幸せとは？

うーん…やっぱり、きこえる人と手話でちゃんと通じ合えたときかな。あとは、家族と気持ちが通じたときもすごく嬉しい。お母さんは手話ができるけど、弟は少しだけ。でも、ちゃんと伝わったときはやっぱり幸せって思う。

Q. 将来の夢は？

いつかは自分の洋裁のお店を持ちたい！あとは家族の健康。今は元気だから、それがずっと続くといいな。

Q. 今日は苦労した経験とか聞いてごめんね。でも、ルビーさんは強いね。辛い経験もあっけらかんと話さし、いつも前向き、ポジティブね、どうして？

ネガティブ(後ろ向き)なのって、好きじゃない。後ろ向きに考えても、いいことはないし。だから、できるだけいいことに目を向けて、生きていきたいって思ってる。



ルビーさんの親族

2025年度ホストファミリーご紹介

大橋孝子さん

ピューピューとルビーは2人とも、明るく元気でいつも笑顔でいてくれます。私は、自然に3人の生活を過ごせていると思っていますが、その分2人の気遣いに随分助けられています。朝のゴミ出し、食事の準備、食後の後片付けと、家事も2人で手分けしてやってくれます。2人の性格は異なりますが、上手く補って、とても仲が良いです。これからも3人で仲良く、楽しく生活出来れば嬉しいです。ピューピュー、ルビーこれからも宜しくね!!



前田千恵さん、朋子さん

11年前にネパールの方を受け入れさせてもらいました。今回2回目となります。聴覚障害の方が来日されるということで私たち家族で何かお役に立てばということで母と相談し、週末のできる範囲でさせてもらうことになりました。ピューピューさんは、来るたびに日本語が上手になり、家でも熱心に勉強をしています。ルビーさんは、手話のできる母がいることが嬉しいようで、2人で笑いながらおしゃべりしています。お二人が元気に活動ができるよう、微力ながらサポートできたらと思います。



日々是 東奔西走

研修担当
内堀友晴

『コミュニケーションの秘訣は思いやり?』



今年度、私の大きな不安はコミュニケーションでした。私と研修生のコミュニケーションは日本語と日本手話でなんとかありますが、研修生同士のコミュニケーションがどうなるかが不安で、不安で。しかしそれは杞憂に終わりました。来日して1か月、お互いにコミュニケーションを取るのには難しいと言っていた二人。しかし今は少しずつ自発的にコミュニケーションを取っています。ツールは日本手話とスマホ。ピューピューさんは日本手話を少しだけ覚えています。私たちは全く教えて

いません。PHDのスタッフとルビーさんの会話を見て、覚えたとす。ルビーさんもピューピューさんが分かる簡単な手話で話しかけます。難しい会話はスマホの翻訳アプリで。来日当初、私たちは「コミュニケーションに気をつけて、誰一人取り残さないようにしましょう」と約束しました。その約束を二人とも忘れず、実践してくれていることに胸がジーンと熱くなります。



事務所近所の公園でランチを楽しむ研修生と内堀



喉元の振動でコミュニケーションを取る様子



仲良く買い物をする様子

居住支援
事業報告

PHD協会では、生活にお困りの外国人の方を対象に居住支援や就労支援、日本語学習支援、生活相談、食料支援などを実施しています。困窮度の高い難民申請者や仮放免中の方への継続的な伴走支援を行いながら、毎月第一木曜日に、主に長田区近辺の留学生を対象に食料配布会を実施しています。特に、来日して間もない留学生は、日本語の壁や支援制度・相談窓口に関する情報不足からセーフティネットに繋がりにくく、問題を抱えている場合があります。そのため、食料配布会を通じてPHD協会の相談窓口として知ってもらい、孤立を防ぐという目的があります。本稿では下記二つの活動についてご報告します。

居住支援担当 結城花菜＝文

01 相談事例の紹介

ー基本情報ー

名前：メイシャさん（仮名）
国籍：チュニジア
在留資格：永住者の配偶者等

ー支援内容ー

- ・日本語学習支援
（日本語試験の概要説明、レベルチェック）
- ・日本語試験の申し込みサポート
- ・食料支援（寄贈品の提供）

ー相談までの経緯ー

夫に突然離婚を切り出され、このままでは1か月後に在留資格を失う。特定技能として日本に滞在し続けたいと相談を受ける。

ー現在のメイシャさんー

日本語試験に合格できず、帰国も視野に今後のプランを検討中。



02 食料配布会の実施

食料配布会は毎月第一木曜日に実施し、計3回延べ221名の外国人の方に食料を配布しました（2025年4月～2025年6月末）。



ネパール出身の留学生と研修生ルビーで「ネパール」の手話

配布会の流れ

11時前
開始前から事務所の前には列ができます。

11時
配布会開始！
長田区近辺の留学生、ウクライナ避難民の方々等が学校や仕事、アルバイト等で忙しい合間を縫って配布会に足を運びます。

大学生やシニアボランティアのお力をお借りし、配布を行います。留学生の多くは日本人との関わりが少ないため、「ボランティアの方と交流ができて嬉しい」という声も多く寄せられます。

初めて参加してくれたミャンマー出身のAさんは、「お米が高いけど、必要だから買っています。安くなるって言っていたけど安くないですね。1kgでもサポートがあると助かります」と話してくれました。

シェアハウスのリビングで、支援者の方からいただいた服やかばん等も配布。お茶を飲みながらお話しします。



食料配布の様子

国籍	ネパール	ウクライナ	バングラデシュ	ミャンマー	スリランカ	韓国	ガンビア	チュニジア
4月	42	5	5	6	4	1	0	0
5月	79	7	2	0	1	1	0	0
6月	53	5	3	3	1	1	1	1
合計	174	17	10	9	6	3	1	1

（単位：人）

※本事業は神戸市福祉局くらし支援課の食支援を通じた相談支援に取り組む民間団体に対する補助金、2025年度公益信託神戸まちづくり六甲アイランド基金の助成を受けて実施しました。

PHD 2025年度新スタッフ紹介



山本 真記子

Yamamoto Makiko

研修担当/手話指導員

自己紹介

皆さんこんにちは！3月より入職させていただきました山本真記子と申します。生まれつき聴覚障害があり両耳が全きこえません。日頃は筆談、音声文字変換アプリ、口話、手話などでコミュニケーションを取っています。中学生の頃から「いつか国際協力事業に関わりたい」と思い続けてきました。10年ほど前より世界各地の聴覚障害者の職場やろう学校、聴覚障害者コミュニティや活動現場などを訪問するようになり、現地での取材や情報交換によってインプット（取り込み）したことをアウトプット（発信）してまいりました。

PHDでは主に研修担当として聴覚障害のある研修生のサポートや日本手話指導などを担当しております。PHDでは今年度に初めて聴覚障害者研修生を招聘し、私自身にとっても日々が新鮮な経験と学びの連続となっています。今後、聴覚障害者当事者として新たな形で国際協力事業を展開させてゆきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします！



他己紹介 事務局長 坂西卓郎

山本さん、通称まっこさん無くてはルビーさんの招聘はありえませんでした。選考の時から助けていただき、一緒に活動してきました。まっこさんはろう者と聴者の架け橋でもあり、私たちにろう者の世界を教えてくれる案内人でもあります。

そして、好奇心、行動力に溢れたエネルギッシュな方です。繊細な指先で紡ぎ出す手話からは社会貢献への強い思いが溢れ、常にアクセル全開。皆さんにはルビーさんにも出会ってほしいですが、まっこさんにも出会っていただきたい。そんな魅力的な方です。



自己紹介動画：お絵かきムービー

「耳が聴こえない私が見た世界と国際協力事業」

<https://www.youtube.com/watch?v=nzoKAj2sLSY>



PHD 2025年度26期国内研修生紹介

自己紹介

はじめまして。今年度、国内研修生としてお世話になります。関西学院大学教育学部4年の関谷実代と申します。大学では多文化共生や国際協力について学び、ネパールで5か月間の教育ボランティアにも参加しました。本研修では、異文化との出会いや対話を通じて自分の人との関わり方を見つめ直し、「共に生きる」とは何かを改めて考える機会にしたいと考えています。また、将来は教員として、この研修で得た地域づくりの視点や、多様な価値観に向き合う姿勢を、子どもたちとの学びに活かしていきたいです。至らぬ点も多いかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

自己紹介

はじめまして！神戸常盤大学教育学部こども教育学科3回生の武部澄佳と申します。小学生の時、ベトナム人技能実習生の方との出会いをきっかけに、アジア・異文化について興味を持ちました。子どもと関わる職業を目指す中で、国際協力にも惹かれる私は、保育士という未来を決断できずにいました。そんな時、PHD運動と出会い、岩村先生のお言葉に触れ、「一員になりたい」「10%を献げたい」と強く思いました。未熟なことも多々ありますが、すべてに学ぶ姿勢と感謝する心を持ち、自身の成長にも繋げていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

／はじめまして／

関谷 実代

Sekiya Miyo

です

武部 澄佳

Takebe Sumika

です



2025年度 事業方針・計画

「生きることは分かち合い、弱き者と」の具現化へ

上記、岩村先生のメッセージの具現化に取り組む。具体的にはネパールからの聴覚障害者の招聘、ミャンマーの大地震被災者等の支援、国内の困窮外国人との共生である。

加えて財政改善にも取り組む。物価高騰などを受けて、当会の運営も厳しさを増しており、ここ数年赤字が続いている。持続的かつ安定的な運営体制を確立するために支出減、収入増の取り組みを進める。

研修事業

～新しいチャレンジ、聴覚障害の研修生招聘&研修を実現する～

2025年度は、当協会として初の試みとなる聴覚障害のある研修生の受け入れを実施する。従来の研修プログラムでは、日本語学習(神戸YMCAでの日本語研修、ホームステイ、ボランティアとの予習復習、講演活動等)を基盤とし、高い言語習得成果をあげてきたが、本年度の取り組みではこれらの既存の強みが十分に活かせない可能性がある。

しかしながら、長年にわたり培ってきた研修運営のノウハウや、多様な関係機関・支援者とのネットワークを最大限活用することで、質の高い学びの機会を提供することを目指す。

居住支援事業

～リアクション型の居住支援活動への移行と重点対応～

2025年度はリアクション型の居住支援を行う。この5年間で相談を受けるためのネットワークがある程度構築され、コンスタントに相談が寄せられるようになった。本年度は寄せられる相談に対し、優先度の高い案件から順に対応していく。

またアウトリーチとしては神戸市との連携で月1回の食料配布会を行う。各月約80～100名の参加が見込まれる。居住支援の入口として、食の支援を通じた接点づくりも継続する。

多文化共生事業

～JICA-NGO等提案型プログラムを通じた多文化共生の推進～

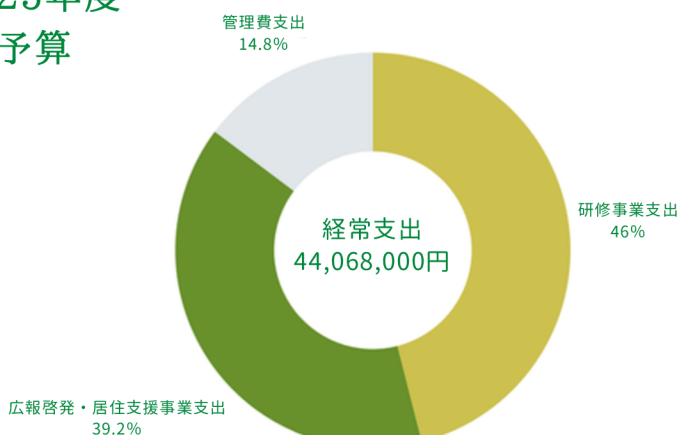
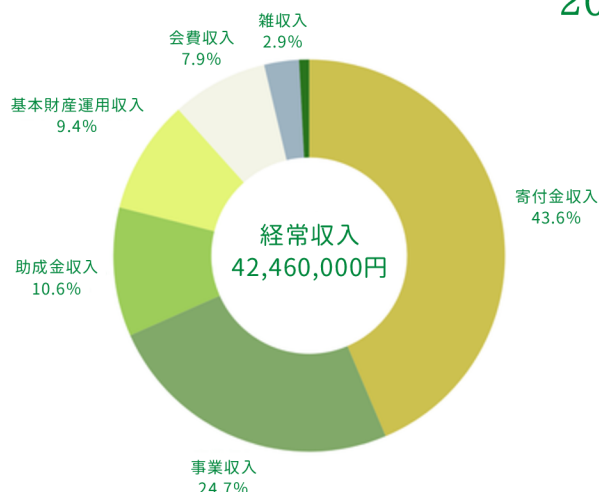
2024年4月に開始したJICA-NGO等提案型プログラム「多文化共生に資するコンサルティングを通じたNGO等の能力強化プログラム(タブコラ2)」で、国際交流協会など地域の多文化共生を担うアクターの能力強化、外国人の医療アクセス改善のための多機関ネットワークの構築、社会福祉分野と多文化共生分野の連携促進に取り組む。

広報・啓発事業

～着実な広報活動と人材育成、業務効率化の推進～

定型の広報活動である会報年3回、事業報告書、会費チラシ、年末募金チラシ等は滞りなく発行し、他職員・ボランティア・国内研修生と連携しながら、ホームページの更新や各種SNSの運用も着実に進めていく。また、研修先や講演会への同行を積極的に行う一年とし、将来を見据えた人材育成の一環として、国内研修生の受け入れも再開する。業務効率化については、日々の業務をマニュアル化し、他の職員でも対応可能な体制を整える。

2025年度 予算





PHD 活動紹介 2025年3月～2025年6月

3月

- 1日 PHD協会 第40期研修生帰国報告会
- 5日 NGOインターン・プログラム成果報告会 参加
篠山ロータリークラブ例会 参加
- 7日 川西ロータリークラブ例会 参加
- 8日 米山奨学生修了式・歓送会 参加
- 10日 NGO神戸外国人救援ネット運営委員会 参加
- 11日 NGO-JICA協議会 参加
川西市社協多文化共生調査研究チーム（タブコラ）
さんだ多文化ふくふくネットワーク会議 参加
- 13日 第4回「大阪・関西万博」ひょうご活性化推進協議会 参加
Nビボランチ会 年次報告書事例共有会 参加
- 14日 神戸YMCA国際委員会 参加
- 16日 HYOMIC研修会 参加
- 17日 第44回RYLA報告会 参加
- 18日 神戸町地域おこし協力隊報告会（タブコラ）
- 19日 HYOGON運営委員会 参加
- 21日 ひょうごコミュニティ財団 助け合い基金審査会 参加
神戸YMCA評議員会（理事会合同） 参加
- 24日 （公財）コープともしびボランティア振興財団理事会 参加
PHD協会 第41期研修生来日
- 25日 大阪YMCA理事会・評議員会 参加
- 26日 NGO-JICA 勉強会「NPO、NGO、外国人支援者とJICAの協働による国内貢献（外国人材受入・多文化共生領域）」 参加
- 27日 PHD協会 定例会議
フードバンク関西 参加
- 31日 丹波医療ネットワーク会議（タブコラ）

4月

- 1日 関西テレビ 取材（ミャンマー大震災について）
NHK神戸放送局 取材（ミャンマー大地震について）
芦屋ロータリークラブ例会 参加
- 2日 読売新聞 取材（ミャンマー大地震について）
PHD協会 辞令交付式
PHD協会 食料配布会
- 5日 関西NGO協議会お花見交流会 参加
- 6日 2025学年度米山記念奨学生オリエンテーション 参加
- 8日 ミャンマー大地震救援募金in尼崎 参加
- 9日 大阪YMCA臨時評議員会 参加
特定技能「自動車運送業」セミナー 参加
篠山ロータリークラブ例会 参加
- 10日 日本地域福祉学会 協議
- 11日 川西ロータリークラブ例会
- 12日 手話しゅわマルシェ 参加
神戸YMCA総主事就任式 参加
- 14日 NGO神戸外国人救援ネット運営委員会 参加
神戸親和大学 講義
- 16日 第22回「多文化共生のための国際理解教育・開発教育セミナー」 打合せ
芦屋ロータリークラブ例会 参加
- 17日 神戸学生青年センター・六甲奨学金基金30周年の集い 参加
フードバンク関西 参加
AI×ファンドレイジング研修① 参加
- 18日 神戸NGO協議会 参加
- 21日 第22回「多文化共生のための国際理解教育・開発教育セミナー」 打合せ
- 22日 NGOインターン・プログラム説明会 参加
- 24日 関西テレビ 取材（ミャンマー大震災について）
かみかわ国際交流コミュニティ・神戸町役場 会議（タブコラ）
- 25日 川西市社協多文化共生調査研究チーム ミーティング（タブコラ）
- 27日 篠山ナマステ会総会 参加
- 28日 神戸新聞 取材（ミャンマー大震災について）
- 30日 ミャンマー地震被災地のためのオンライン緊急祈禱会 参加

5月

- 1日 PHD協会 食料配布会
- 2日 PHD協会 定例会議
- 7日 神戸学院大学現代社会学部「社会防災特別講義Ⅳ」 講義
- 8日 大阪YMCA臨時評議員会 参加
甲南女子大学国際学部多文化コミュニケーション学科「NGO・NPO 論」 講義
関西NGO協議会選挙管理委員会 参加
- 9日 川西ロータリークラブ例会 参加
- 10日 プラスワン交流会 参加
- 12日 NGO神戸外国人救援ネット理事会 参加
神戸親和大学「国際ボランティア論」 講義
- 13日 タブコラ中間振り返り
- 14日 芦屋ロータリークラブ例会 参加
- 15日 かみかわ国際交流コミュニティ・神戸町役場 会議（タブコラ）
川西市社協Canva講座 打合わせ（タブコラ）
- 16日 神戸市シルバーカレッジ国際交流・協力コース 講演
遺贈寄付セミナー 参加
- 19日 神戸親和大学「国際ボランティア論」 講義
HYOGON 監査
- 20日 兵庫県社会福祉協議会 訪問（タブコラ）
- 21日 PHD協会 監査
コープフーズ外国人従業員との交流会（タブコラ）
篠山ロータリークラブ例会 参加
- 23日 PHD協会 理事会
- 26日 丹波医療ネットワーク会議（タブコラ）
NGO神戸外国人救援ネット会議 参加
神戸親和大学「国際ボランティア論」 講義
- 27日 PHD協会 定例会議
HYOGON運営委員会 参加
- 28日 ミャンマー大地震救援募金in尼崎 参加
Nビボランチ会～緊急支援広報でのCanvaの使い方～ 参加
- 29日 ろう者でもできる！Yes, Deaf Can！ 参加
コープともしびボランティア振興財団理事会 参加
- 30日 オンライン緊急祈禱会「ミャンマー地震被災地のために」 参加
真如苑多文化共生ネットワーク会議 参加
- 31日 関西NGO協議会総会 参加
米山奨学生・学友研修交流会 参加

6月

- 1日 川西ロータリークラブ親睦バス旅行 参加
- 2日 神戸親和大学 講義
- 3日 同志社女子大学 講義
- 5日 NGOインターン・プログラムオリエンテーション 参加
PHD協会 食料配布会
NGO-JICA協議会 監査
- 8日 神戸市シルバーカレッジ国際交流友の会交流会 参加
- 9日 NGO神戸外国人救援ネット運営委員会 参加
NJ協議会2025年度総会 参加
神戸親和大学 講義
- 10日 神戸YMCA評議員会 参加
- 11日 PHD協会 評議員会
- 12日 ひょうごコミュニティ財団理事会 参加
- 13日 川西市社協やさしい日本語講座（タブコラ）
兵励会 参加
- 14日 プラスワン交流会 参加
- 15日 PHD協会 第41期研修生来日報告会
- 17日 メタファシリテーション講座 参加
- 18日 川西市社協Canva講座（タブコラ）
兵庫県聴覚障害者協会 訪問
芦屋ロータリークラブ例会 参加
- 19日 フードバンク関西 参加
- 20日 JANIC総会 参加
いなみ野学園大学院 講義
コープともしびボランティア振興財団理事会 参加
- 22日 NGO神戸外国人救援ネット30周年の集い 参加
- 24日 多文化共生WG 参加
- 26日 市民参加協力課との協議（タブコラ）
- 27日 PHD協会 定例会議
川西ロータリークラブ例会 参加
- 29日 日本地域福祉学会第39回大会 参加
- 30日 HYOGON総会 参加



第41期研修生来日報告会

PHD News



「みんなのいえ」マンスリーサポーターを募集しています！



PHD協会では、様々な事情を抱え生活困窮に陥った外国人の方が生活を立て直すための居住支援事業を行っています。月1,000円のご支援が「みんなのいえ」を支え、困っている外国人の自立支援に繋がっています。

「みんなのいえ」施設長よりコメント

PHD協会「みんなのいえ」は皆さまの大きな力を借りて困窮外国人支援を続けています。この場所が今日も扉を開けていられるのは他でもない皆さまのおかげです。そしてその大切にお預かりした物資やお金に私たちが愛を乗せて送り出します。この連携こそがみんなのいえを支えてくれる大きな軸です。今日も「お風呂を貸して下さい」とドアを叩く外国人がいます。まさしく命に寄り添う日々。「みんなのいえ」を訪ねてくれる者は1人も取りこぼさない。そんな皆さまとの二人三脚が末長く続きますように。(濱)

今までの支援実績

※2025年1月1日時点

32ヶ国 1071人
3,097件(延べ)



マンスリーサポーター
ご登録はこちらから



当会WEBサイトからも
ご登録いただけます

目指してます！

100人!!

現在(2025年6月末時点) 48名

- ✓毎月、自動引落し
- ✓ご寄付は寄付金控除の対象
- ✓月1回「みんなのいえ」便りをお届けします
- ✓会報(年3回)と事業報告書をお届けします



PHD協会の活動をもっと身近に！

PHD協会では、研修生の成長の様子や居住支援、ミャンマー大地震への支援活動など、日々の取り組みを各種SNSで発信しています。年に3回の会報では伝えきれない、現場の「今」を写真や動画でお届け中！皆さまからの「いいね」や「シェア」が、PHD運動を広げる大きな力になります。ぜひフォローして、応援をよろしくお願いします。

各種SNSはこちらから→



国内研修生がPHD協会WEBサイトに
ブログを書いています♪



ミャンマー被災地に心を寄せて
〇月〇日のPHD協会

ピューピュー 今の時期は一日中雨が降るから濡れるし、危ない。家が壊れた人たちは道際の木の下で小さな家を作る。そこでみんなでごはんを食べる。水もない。食料支援で生きている。

山本 以前に訪問したろう学校では、子ども達の明るい笑顔と前向きな姿勢に心を動かされた。その子たちも地震の影響を受けたと聞き、胸が痛い。

坂西 長く苦しんでいたミャンマーの人たちに止めを刺した大地震。公助が全くない被災地はこんなに大変なのかと絶句。共助、助け合いが救いだが…

内堀 阪神・淡路大震災を経験していないが、地震の事は学校でたくさん学んだ。復興までの道のりが長いことは知っている。私たちに何ができるのか。

濱 かつて3年暮らしたミャンマー。誰よりも他人を思いやる優しい国。被災地でもきっと助け合い、食べ物を分け合っていることだろう。

上から、
暑い暑い日本の夏でもへっちゃらな人順。



新しい命が誕生しました



サンティダさん
2015年度第33期研修生
ミャンマー

昨年のモーママさんに続き、今年もミャンマーから嬉しいお知らせが届きました♪

サンティダさんが2025年4月22日に元気な女の子を出産しました！

大地震直後でしたが、母子ともに元気とのこと。です。「赤ちゃんのお世話は大変です〜。お母さんになるのは簡単じゃないね！」と、日々奮闘するサンティダさんなのでした😊